

衛生委員会だより 2023年12月

～受けよう がん検診～

がん検診でがんの転移前に見つけることが大事。今は、がん全体の6割は治ります。がんを必要以上に怖がらないことが大事です。さらに、1～2cmの早期がんで見つければ、9割以上のがんが完治できます。

がん検診の目的

がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。単に多くのがんを見つけることが、がん検診の目的ではありません。

がんによる死亡が多いもの

具体的には、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸(しきゅうけい)がん等です。

⇒こうしたがんは、がん検診により多くの人々の命を助けることができます

がんの進行について

ひとつのがん細胞が、検査でわかるほどの大きさになるのに10年から20年の時間がかかります。

たとえば、乳がんは、ひとつの細胞が1cmのがんに成長するまで、細胞分裂で約30回、15年～20年かかります。しかし、乳がんが1cmから2cmになるには、たった3回の細胞分裂で済み、時間にすると1年半～2年で大きくなります。

ということは、リスクの高い年齢になったら、がん検診を1～2年毎に1回受けなければ、がんを早期発見できないことがわかんと思います。

また、女性がかかるのが多いのは乳がんですが、男女共に死亡率が高いのは【大腸がん】です。気づかない間に進行し、発見時には腫瘍が大きく、転移していることが多いからです。

そのため、定期的な検診を心がけましょう。

【衛生委員会】

検診目安

◆子宮頸がん検診・・・20歳以上の女性は、2年に1回

└ 細胞診

◆乳がん検診...40歳以上の女性は、2年に1回

└ 乳房エックス線検査（マンモグラフィ）

◆胃がん検診・・・男女ともに、50歳※以上は2年に1回

└ 胃内視鏡検査・胃部エックス線検査

◆肺がん検診・・・男女ともに、40歳以上は年に1回

└ 胸部エックス線検査と喀痰細胞診の併用

*喀痰細胞診」は単独では行いません。検査対象となるのは、50歳以上で、喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が600以上の方です。現在喫煙されている方だけではなく過去に喫煙していた方も対象になります。

◆大腸がん検診・・・男女ともに、40歳以上は年に1回

└ 全大腸内視鏡検査

気を付けたいこと

早期のがんには、まず症状はないのです。

がん細胞は、周りの正常な組織を破壊しながら広がっていきます。

時間が経つと、がんは血管やリンパ管の流れにのって

ほかの臓器へと移動し、そこでかたまりをつくります。がんの転移です。

がんが転移せず、その場にとどまっている段階なら、治療は比較的簡単。

けれども、がんが転移してしまうと、完治は難しくなります。ですから、がんは進行して転移する前に、自覚症状のない早期のうちに、発見することが大切です。